

読者のひろば

ハンセン病の
学会を心待ち

高谷和生 58歳 公務員
(玉名市)

11、12の両日、熊本で第9回ハンセン病市民学会が開催される。熊本はハンセン病問題では原点となる地。熊本地裁での国賠訴訟の歴史的判決がある一方、教育の機会を奪った黒髪小学校事件、冤罪が疑われる藤本事件、さらには今に続く差別の構造をあぶりだした黒川温泉宿泊拒否事件と、ハンセン病に関わる全国の方々が一度は訪れたい地でもある。

先に行われた学会のボランティア説明会に、菊池恵楓園ボランティアガイドの一員として、多くの仲間と参加した。会場には地元の中学生から80代のシニア層までが集まった。これまであまり一緒に活動できなかった大学生・専門学校生が説明に聞き入る熱心な様子に心を打たれた。ハンセン病問題を通して、私たちがどのような社会をつくりたいのか、その第一歩となる出会いの場である

という趣旨を受け、ボランティア全員で力を合わせて取り組みたい。

県の宿病である水俣病問題と絡めた「いのち」の問い直しは、8年ぶりの開催となる熊本集会にとって当を得たテーマである。また、私たちが再び加害者の立場に立たないためにも、二度にわたる「無らい県運動」の検証が今求められている。全国の方々との出会いを心待ちにしている。

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。

あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係
②ファクス 096(363)1268
③Eメール

hiroba@kumanichi.co.jp

投稿される方へ

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投